

■芥川竜之介 短編に独自の世界を開き、若くして文壇の寵児となるも、'ぼんやりした不安'の一言を遺して自殺した。

あくたがわり ゆうのすけ

大本教・・・1892＝ 東京の生れ。生後7ヵ月にして母の発狂のため、その実家芥川家に養育され、

日清戦争始・1894＝2歳：

幼少年期を下町の本所に過ごす。養家は代々お数寄屋坊主を務め、その家系につたわる文人的・遊芸的気分はおのずからに彼の作風に影響を与え、その文人趣味とともにすぐれた鑑賞家の眼を育てた。

田中正造直訴1901＝9歳：

教科書疑獄・1902＝10歳：この頃、近代文学を読みあさり、_小学校同級生と回覧雑誌をつくり、表紙絵やカットまで描く。

日露戦争終・1905＝13歳：高等小学校卒業。府立三中に入学。早速、回覧雑誌を始める。

韓国併合・・・1910＝18歳：府立三中を卒業、_成績優秀で一高に推薦入学。同級に、菊池寛・久米正雄・山本有三・土屋文明ら。

大逆事件判決1911＝19歳：恒藤恭と親交し始める。在学中近郊各地に旅行。

明治天皇没・1912＝20歳：

大正政変・・・1913＝21歳：一高を卒業。東京帝国大学英文科に入学。

第一次大戦始1914＝22歳：*同級生らと第三次{新思潮}を創刊し、処女小説「老年」を発表。失恋して自暴自棄となり、

21ヶ条要求・1915＝23歳：恒藤恭の実家松江に呼ばれ立ち直るとともに、芸術が理解できず不忍池をも埋立て宅地化する発想を抱く近代への疑いも強まる。_「羅生門」を{帝国文学}に発表。漱石門下生となる。

民本主義・・・1916＝24歳：東大英文科を卒業後、海軍機関学校の教授嘱託になる。*この年発刊の第4次{新思潮}に発表の「鼻」が、師夏目漱石の推挽を受け文壇に登場。たちまちに大正文壇の寵児となった。漱石死去。「芋粥」「手巾」、第1創作集「羅生門」を刊行。「戯作三昧」或日の大石内蔵助など江戸時代を舞台としたもの、

ロシア革命・1917＝25歳

本格政党内閣1918＝26歳

ベルサイユ条約・1919＝27歳

大暴落・・・1920＝28歳

原敬首相暗殺1921＝29歳

水平社結成・1922＝30歳

結婚。_「地獄変」「蜘蛛の糸」「開化の殺人」、実父が没する。英語教官をやめ、大阪毎日新聞社社員となる。長男誕生。「舞踏会」など明治初期に材をとった開化ものなど、「六の宮の姫君」など王朝の説話集に材をとった王朝もの、「奉教人の死」や「神神の微笑」のごとき切支丹ものをはじめ多岐にわたったが、いずれもその鋭い人間批評とともに、また一面「日本的優情」とも呼ばれる繊細な抒情性をにじませ、*独自の短編世界を示したが、健康が悪化。やがて無意識の世界、日常性そのものに目を向けるようになり、「保吉の手帳から」ほか、この年以後書き出される「保吉もの」から

関東大震災・1923＝31歳

治安維持法・1925＝33歳

円本時代始・1926＝34歳

金融恐慌・・・1927＝35歳

関東大震災に遭遇、震災後の市内を見て廻る。_菊池寛が創刊した「文芸春秋」の巻頭に「侏儒の言葉」。

「大導寺信輔の半生」、

「点鬼簿」などへと進むにつれ、己の出自をめぐる宿命への暗い凝視となる。

*心身衰弱するなか、力編「玄鶴山房」や「河童」、珠玉の小品「屢気楼」などを発表するも、「或阿呆の一生」ほかの遺稿に作家の宿運を語り、「ぼんやりした不安」の一句を遺書に残して、自殺した。